

	神戸大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	発達科学部（第1年次：280名 第3年次：10名） 人間発達環境学研究科（M：96名、D：17名） 国際文化学部（第1年次：140名） 国際文化学研究科（M：50名、D：15名）
沿 革	明治7（1874）年 兵庫県師範伝習所設置 大正12（1923）年 姫路高等学校設置 昭和18（1943）年 兵庫師範学校設置 昭和19（1944）年 兵庫青年師範学校設置 昭和24（1949）年 神戸大学教育学部設置 同 年 神戸教養課程設置 同 年 姫路分校設置 昭和39（1964）年 教養部設置 昭和56（1981）年 教育学研究科設置 平成4（1992）年 発達科学部設置 同 年 国際文化学部設置 平成9（1997）年 教育学研究科を改組し、総合人間科学研究科を設置 平成19（2007）年 総合人間科学研究科を改組し、人間発達環境学研究科、 国際文化学研究科を設置
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、県の教育を支える人材として、義務教育を担う優れた教員を質量ともに養成・確保することを目的とし、教育学部が設置された。また、同年に、一般教養の充実を図ることを目的として、神戸教養課程及び姫路分校が設置され、昭和38（1963）年に両分校を統合し、昭和39（1964）年に教養部が設置された。</p> <p>昭和56（1981）年に、人間の発達と教育に関する研究を基礎に高度な理論的・実践的な指導能力をもった教育者及び研究者の養成を目的として、教育学研究科が設置された。</p> <p>平成4（1992）年に、教育・研究の対象を、学校教育を主体とした領域から人間の発達にわたる全領域に広げ、新しい科学としての学問体系、それに伴う教育・研究体制を確立し、社会的要請に応え得る人材の育成を図ることを目的とし、教育学部を改組し、発達科学部が設置された。</p> <p>また同年に、新しい学際的な領域を開拓することを目的として、異文化理解を深め、国際社会の協調を推進するためのコミュニケーションの方法</p>

を開発することを理念とし、教養部を廃止し、国際文化学部が設置された。

平成9（1997）年に、人間・文化・環境の相互関係を総合的に捉えることにより、個別専門分野の枠を超えた人間科学研究の総合化を目的として、教育学研究科を改組し、総合人間科学研究科が設置された。

平成19（2007）年に、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という人間の発達研究にとって新しい鍵となる理念を中核に据えた本格的な人材養成プログラムへの全面的な展開を図ることを目的とし、総合人間科学研究科を改組し、人間発達環境学研究科を設置した。

また、同年、グローバル化の進展等、社会文化の今日的状況の大きな変化を踏まえ、この変化に積極的に対応することを目的として、総合人間科学研究科を改組し、国際文化学研究科を設置した。

強みや特色、
社会的な役割

【総論】

神戸大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、学際分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強みや特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

- 乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを支える環境を対象とした発達科学の学問分野の教育研究を通じて、幅広い知識と豊かな教養を身につけ、発達科学に関する専門的知見及び問題解決能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。

国際文化学の学問分野の教育研究を通じて、幅広い教養と高い倫理性を身につけ、豊かな感性と柔軟な思考力をもって自ら主体的に課題に取り組み、考え、判断し、行動できる能力等を有し、文化の諸問題を世界的視野に立って考察し、地球規模で社会に貢献できる人材を養成する。

- このため、発達科学分野では、少人数対話型教育を徹底し、受講学生の問題発見能力、効果的なプレゼンテーション能力、質問・ディスカッション能力等を涵養している。また、国際文化学分野では、学士課程から博士後期課程に至るまでの一貫した体系的な教育課程を整備している。
- これらの取組を通じて、発達科学分野では、平成25年度の聞き取り調査で、リーダーシップや柔軟な対応力、高いモチベーションが身についたと学生も就職先も回答している。国際文化学分野では、協定大学との間で毎年相互に40～50名の交換留学生の派遣及び受入れを実施している。また、民間調査の「全国大学就職ランキング」（平成24年8月）において全国の国際系学部で第一位の就職率を達成している。

- 今後、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 発達科学分野では、人間の発達及びそれを支える環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力、独創性及び卓越性を発揮しうる研究能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。

国際文化学分野の博士前期課程においては、文化を複合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究する能力、言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸問題に取り組む能力を有する専門職業人・研究者を養成する。博士後期課程においては、複合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓できる能力、言語情報コミュニケーションの諸問題を探求し、グローバル化する現代世界を多角的に研究できる能力、高度な専門性の上に立った領域横断的な研究を行う能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。

- このため、発達科学分野では、教員が共同で進める先端的研究会に学生を参加させ、現実的な問題意識の醸成方法や高度な研究方法を学ぶだけでなく、プロジェクト・マネジメント能力も養わせる「研究道場」を設置している。また、国際文化学分野では「研究者養成プログラム」を整備し、演習を中心に据えたカリキュラム編成を行っており、2年次になった段階で、博士後期課程の開設科目である「特別演習」を履修・取得できる。

- 高度な実践的、専門的な知識や技法を短期間で身につけ修士の学位を取得できる1年履修コースを設けるなど引き続き社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、海外の大学との連携を通じ、人文・社会科学分野の教育の国際通用性を確保する。

【研究】

- 人間の発達及びそれを取り巻く環境に係る学際分野における研究実績をいかし、アクティブ・エイジング支援、ライフヒストリーによる心理教育支援、高度教員養成プログラム開発、バイオマスエネルギー利用に係る研究を推進している。また、国際文化学に係る学際分野における高い研究実績をいかし、EU 文化研究、東アジア共同知、及び音声コミュニケーションに関する統合的研究を推進している。

- これらの取組を通じて、発達科学分野では、ライフヒストリーに関して国際的共同研究を推進し得られた知見を Palgrave Macmillan 社により出版している。また、バイオマスエネルギー利用の研究成果を企業が実用化させるため、企業に指導を行っている。国際文化学分野では、音声コミュニケーションに関する統合的研究において、世界で唯一の日本語音声動画コーパスとして多言語の字幕付きでインターネット上で公開している。
- 今後、発達科学分野では、人間の発達及びそれを支える環境を多面的に捉えるため、異なる専門分野間の連携等に取り組み、国際文化学分野では、EU 圏の社会・文化構造及びガバナンスに関する研究について重点的に取り組むなど、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。また、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信する。

【その他】

- 神戸市灘区役所旧庁舎に「のびやかスペースあーち」を設置し、子ども福祉論や障害共生支援論の担当教員が中心になり、数多くの学生や地域民間ボランティアと協働し、子育て支援や障害者支援を行っている。
- 国際文化学と文化政策を融合するグローバルな立場からのアートマネジメント教育カリキュラムを実践する一方で、「神戸国際芸術祭」を企画運営するなどアートマネジメントによる社会貢献を実施している。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。